

春の クリーンアップ ウォーキング

レポ

令和6年7月7日
参加者：28人

「オレだなば、雨だつてやるなだ」朝からシトシトと湿っぽい空を眺めていると、金峰山の麓集落の明沢の方々は、清々しいほどにさりと雨天決行を宣言し、その迷いのない一言で見事、我々のくすついた心を明るくした。本日はりんご三山初の清掃活動の日。山麓の刈り払いを予定していた地元の人たちも、それだけオレだも同じ日にすべ、と集結した。山麓道路のゴミ拾い隊の我々と、刈り払い隊の地元の方々との同時開催で、金峰山は雨にもかかわらず、一日中活気ある日となった。人の足が向き、目が向くことが山と森を守る一歩に繋がる。今日はたくさん頼もしい足と目と気持ち、この山と森に集まった。

楽しかった！

希望者は活動後に森歩き体験



ご参加のみなさんの声

里山の役割や、いまどんな状況なのか、問題となっていることは何かを知ることが第一歩かなと思う。いろんな人たちに認知してもらうことが大事だと思う。

クリーンアップの眼で山を歩くと、ゴミだけでなく植物、地形など登山道脇に新たな発見がありました。人と山の関わりについても考えさせられました。

写真の吹き出し文にもご参加の方からのお声を入れております。

クリーンアップ活動の後のブナの森はいっそう美しく感じられた。それだけでなく、座学でアカシアのことなどを説明していただいたおかげで、里山の問題に触れるきっかけとなったことも印象的だった。

里山がより身近な存在として感じられた。ふだんのハイキングでもビニール袋を持ち歩いて、ちょっとしたゴミなどを拾うようにしたいと思う。

活動のなかで見つけた課題

なんとす？ ニセアカシア。

幹の太さはまだ3センチほどのその樹木は、すどいトゲトゲで幹と枝をびっしりと武装して、ナラ枯れ伐採地に1本だけ生えていた。

調べると、それはニセアカシア。北米生まれのマメ科の樹木。繁殖力のすさまじさで、世界的に問題になっている樹木であった。

金峰山が外来植物に占拠されてしまっ！、慌ててその一本を切り倒してセーフ、と思つたらその一年後、我々は驚愕する。なんと。昨年切り倒した樹高3メートルの幼木が復活していたのだ。この樹木、一本切ると複数の芽を出しますます元気に繁殖するという、迂闊に手出しすれば倍返しされるヤバイヤツ。さてりんご三山ではこのニセアカシア、なんとせばえべ？



「葉っぱ拾うんだば腐葉土にすればえど」秋の清掃活動では、道路沿いを埋める落ち葉も掃除するのだと、地元の人に伝えると彼らはそのように提案した。ブナ科の多い森である。現代ではゴミとして掃かれるだけの落ち葉だが、昔は肥料に生まれ変わって利用されていた。清掃活動では、道路脇の森へ還す予定の落ち葉だったが、このことを参加者に伝えると、何人かは袋を落ち葉で満杯にした。おりしも季節は秋。落ち葉のみならず、ムキタケで袋をいっぱいにしてしようとする人も。森の「おみやげ」は昔も今も、わたしたちの生活と心を豊かにしてくれる。

秋の クリーンアップ ハイキング

レポ

令和6年11月16日
参加者：45人